第1学年の実践（国語）

1　単元名　　のりものずかんをつくろう
　教材名　　「いろいろなふね」 東京書籍 １年下

2　単元のねらい
○乗り物に興味をもって教材文を読んだり，好きな乗り物について調べたりしようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
○書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り，他の本で読んで調べたことをまとめることができる。
【読むこと】
○主語や述語の関係に注意して文章を読み取ることができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3　情報リテラシー指導の観点
○　Ⅰ　情報の取り出し　図書資料から，必要な情報を見つけ出し，抜き書きする。

4　単元設定の理由
（1）単元について
　本単元は，学習指導要領第１学年及び第２学年の「C読むこと」の「イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」に関した指導内容である。
　児童はこれまで，文章の内容を正しく読み取ったり，好きな本を選んで読んだりする学習を行っている。しかし，教材に関するテーマについて本を読み，調べたことをまとめる学習は行っていない。そのため，本単元では，好きな乗り物について本を読んで調べ，調べたことをカードにまとめる活動を設定した。
　本教材は，４つの船の「やく目・つくり・できること」について，同じ文章構成，同じ文型で説明されており，叙述に即して内容を正確にとらえることに適していると考えられる。教材文を使って船についてカードにまとめてきた学習を活用し，自分のお気に入りの乗り物について本を読み，調べる学習を行う。教材文で学んだ観点ごとに「のりものカード」を書いていく活動は，興味をもって取り組むものと考えられる。

（2）児童について

（略）

（３）指導にあたって

本単元では，児童の実態をふまえて次の点を重視し，意欲的に学習に取り組ませたい。

学校図書館の活用

本単元では，単元を貫く言語活動「のりものずかんをつくろう」を設定し，児童が目的意識をもって学習に取り組めるようにしようと考えた。そこで，過去の1年生が作った「のりものずかん」を紹介したり，乗り物に関する本の並行読書を行ったりして乗り物について興味･関心がもてるようにしていきたい。また，担任と司書教諭，学校司書が連携し，乗り物についてのブックトークや並行読書のための資料選定，ブックリストやカードの作成，のりものカードを書くための例示文の検討と作成，さらに，一人一人が調べたいと思った資料の準備を行うことで，１年生のお気に入りの「のりものずかん」ができるようにしていきたい。その際，ブックトークで紹介する本は，図鑑類だけではなく，読み物の本を加え，どの子どもにも乗り物について興味がわくように仕向けることにする。

語彙の習得

教材文の乗り物は，児童にとって触れる機会の少ない「船」を題材にしているため，実際に乗ったり，見たりした経験を話させたりしながら，船への興味を引き出すようにしたい。写真を活用し，どんなことをする船か予想させるなどし，一つ一つの船の特徴と名前をおさえていきたい。

また，この説明文の読み取りで重要となる以下の３つの観点についておさえていく。

①やく目・・・何をするための船か。

②つくり・・・何があるか。

③できること・・・何ができるか。

まず，教材文の中の３つの観点が書かれている部分にそれぞれ線を引かせる。その後，付箋に書き抜く。線と付箋の色を統一することにより，児童はより分かりやすくまとめることができると考える。単元を通して３つの観点でまとめさせることで児童は自主的に取り組むことができるだろう。

その他にも教材文を正しく理解できるようにするため，教材文全体を通して着目させたい語句は以下の通りである。

のりもの・きゃくせん・たくさんの人をはこぶ・きゃくしつ・しょくどう・休んだり（・・・したり，・・・したりするの表現）・フェリーボート・ぎょせん・さかなのむれをみつけるきかい・あみ・しょうぼうてい・ポンプやホース・水やくすりをかけて火をけす

調べたことを分類する

調べようと思った乗り物について，「やく目」「つくり」「できること」に分類してまとめることができるように，付箋で色分けすることで視覚化し，視点を意識しながら取り組めるようにする。

本時では，はじめに，ある乗り物（例：救急車）について書かれている資料を使って，みんなで「やく目」「つくり」「できること」について読み取る。そして，色付箋に書き写し，ワークシートに書く作業を確認する。次に，自分のお気に入りの乗り物についてペアで調べる。教材文とは違う図書資料からの調べ学習に抵抗を示す児童がいると考えられるので，本時は，相談しながらできるペアでの活動とする。次時からは一人ずつ取り組むこととする。調べる資料については，事前に担任・司書教諭・学校司書で話し合っておき，その児童に合った資料を与え，大事な事柄が正しく読み取れるよう配慮する。教科書のような説明文の文型ではないものがあることも想定されるが，その際でも，カードにまとめる視点を意識させ，大事な言葉や文に着目させる。それを文章化するのが難しい場合は，個別に文型を示すなどして支援していく。

5　単元の指導計画と評価計画（全１２時間）

時間	学習活動	教師の指導・支援 （◎担任〇司書教諭●学校司書）	評価規準及び 評価方法
一次 1 2	〇学習の見通しをもつ。 ・教科書や学校図書館の本，昨年度の１年生が作った「のりものずかん」と出会い，お気に入りの乗り物について調べたいという意欲をもつ。 〇教材文を読んで初発の感想を交流する。	◎過去の１年生が作った「のりものずかん」を見せ，単元の見通しがもてるようにする。 〇●乗り物に関する本のブックトーク，読み聞かせをする。 ◎分かったこと，もっと知りたいことなどを自由に話し合う。	☆乗り物に興味をもち，「のりものずかん」を進んで作ろうとしている。 【関】（発言）
	おきにいりの　のりものをしらべて，「のりものずかん」をつくろう		
二次 3 4 5 6 7	〇４つの船について，読みとったことをカードに書く。 乗り物の本の並行読書	◎「やく目」「つくり」「できること」という言葉の意味を押さえ，説明の中で使えるようにする。 ◎「やく目」は青，「つくり」はピンク，「できること」は黄色の付箋にまとめる。 ◎全体の構成や，例示部分の構成など，説明に使われている基本的な文型を押さえる。	☆事柄の順序に気をつけて，乗り物の「やく目・つくり・できること」を表す大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 【読】（発言・ワークシート） ☆主語と述語の関係に注意して文章を読んでいる。【言】（発言・ワークシート）
三次 **8** **本時** 9 １０ １１	〇お気に入りの乗り物を，３つの事柄についてまとめ，「のりものカード」に書く。 ペア（1時間） 個人（3時間）	◎〇●これまで読んできた本の中から，一人一人が何について調べたいのかを把握し，個々に応じた調べる本を選定しておく。 ◎〇例文を示し，付箋に書く事柄を一緒に考えさせる。 ◎〇●事柄ごとに何を書くか決めて，付箋にまとめ，ワークシートに書き写すようにさせる。	☆好きな乗り物について，「やく目･つくり･できること」を表す大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 【読】(発言･ワークシート) ☆資料の中から事柄ごとに抜き書きしようとしている。 【言】（発言・ワークシート）
4次 １２	〇乗り物カードを用いて大事な言葉に気を付けて紹介し合う。 「のりものずかん」を完成させる。	◎乗り物カードを用いて，大事な言葉に気を付けながら，自分の思いを紹介し合うようにさせる。 ◎「のりものずかん」を完成させる。	☆「やく目」「つくり」「できること」の事柄ごとに，大事な言葉や文を見つけている。 【読】（発言・ノート）

6　本時の学習

（1）ねらい

好きな乗り物について，大事な言葉に気を付けながら，３つの観点ごとにカードに書くことができる。【読むこと】

（2）展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援（◎担任〇司書教諭●学校司書）と評価（☆）
１.本時の学習を確認する。		◎前時までの学習を振り返り，カードに書いていく乗り物を確かめさせる。
のりものの本をよんで，「やく目」「つくり」「できること」をカードに書こう。		
２.「きゅうきゅう車」の例文を使って，事柄ごとに色分けしながら読んでいく。	・「やく目」は青，「つくり」はピンク，「できること」は黄色の紙に書こう。 ・例文の中のどの言葉に注意して選べばいいだろう。 やく目…何をする「～ための」 つくり…何がある 「ある・つんでいる」 できること…何ができる 「できる・する」	〇例示されたものを一緒に考えさせることで，見通しをもって取り組めるようにする。 〇調べたい情報がどこに書かれているかに気をつけさせる。 〇説明のための基本的な文型を押さえる。
３．選んだ乗り物の資料を読んでカードに書く。（ペア）	・掲示されたものと同じ文型にすると簡単だな。 ・練習したように言葉を探そう。 ① 大事な言葉に線を引く ② 決められた色の付箋に書く ③ 先生に確認してもらう ④ カードに書き写す ⑤ 乗り物の絵を描く ・ペアで相談しながら「のりものカード」を完成させよう。	◎書き込みができるように，選んだ乗り物の資料を印刷したものを渡す。 ◎ワークシートの枠と同じ大きさの付箋を与える。 ◎手順が分かりやすいように作業順番を示す。 ◎〇●机間指導を行い，３つの事柄がどこに書かれているか一緒にさがす。資料などから上手く読み取れない場合は，例示されたものを振り返るなどして，一緒に考える。 ☆観点に気をつけて，好きな乗り物について資料を読んでいる。（カード・行動観察）
４．学習の振り返りをする。	・今日学習したことで分かったことや困ったことを話そう。	◎次時への興味をもたせるために，できたものをいくつか紹介する。

（３）本時の評価

A　十分に満足できると 判断される児童の具体例	B　おおむね満足できると 判断される児童の具体例	→支援を必要とする児童への 指導の手立て
「やく目」「つくり」「できること」を分かりやすい文章にまとめることができる。	「やく目」「つくり」「できること」を本の中からさがして，３つの項目に分けることができる。	どんなことが書かれているか，さがせない→教科書の例文をもとに，３つの事柄について書かれているところを一緒にさがす。

（４）研究の視点

①例示したものを使って，乗り物について書かれている内容を３つの事柄ごとに分類したことは，言葉に着目して，資料から抜き書きしようとする意識につながったか。

②ペアで学習を進めたことは，図書資料からの調べ学習に抵抗を示す児童にとって有効であったか。

②担任・司書教諭・学校司書の働きかけは，学習を進める上で有効であったか。

７　ブックリスト

	書名	作者	出版社
1	はたらくじどう車①　しょうぼう車	小賀野 実	ポプラ社
2	はたらくじどう車②　パトロールカー きゅうきゅう車	小賀野 実	ポプラ社
3	はたらくじどう車③　ブルドーザー パワーショベル	小賀野 実	ポプラ社
4	はたらくじどう車④　バス トラック	小賀野 実	ポプラ社
5	はたらくじどう車⑤　せいそう車 いどうとしょかん車	小賀野 実	ポプラ社
6	学研の図鑑　　鉄道　船	原口 隆行	学研教育出版
7	学研の図鑑　　自動車　飛行機	高島 鎮雄	学研教育出版
8	新しいのりもの　電気自動車　リアルモーターカーを調べる	梅澤 実	学研教育出版
9	はっけんずかん　のりもの	小賀野 実	
10	のりものくらべ　①はたらく車	相馬　仁	偕成社
11	のりものくらべ　②くらしをまもる車	相馬　仁	偕成社
12	のりものくらべ　③電車やてつ道	相馬　仁	偕成社
13	のりものくらべ　④いろいろな船	相馬　仁	偕成社
14	のりものくらべ　⑤ひこうきやうちゅう船	相馬　仁	偕成社
15	チャイルドブックこども百科　はたらくじどう車図鑑いろいろ 501 台	松澤正二	チャイルド本社
16	大解説！のりもの図鑑ＤＸ　①工事の車	小賀野 実	ポプラ社
17	はたらくじどう車しごととつくり①ブルドーザーショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
18	はたらくじどう車しごととつくり②しょうぼう車きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
19	はたらくじどう車しごととつくり③パトカー白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
20	はたらくじどう車しごととつくり④バストラック	小峰書店編集部	小峰書店

21	はたらくじどう車しごととつくり⑤ごみしゅうしゅう車ゆうびん	小峰書店編集部	小峰書店
22	超はっけん大図鑑　③ 新幹線　特急列車	小賀野 実	ポプラ社
23	超はっけん大図鑑　④緊急出動！サイレンカー	小賀野 実	ポプラ社
24	超はっけん大図鑑　⑤日本を走る列車１９５	小賀野 実	ポプラ社
25	超はっけん大図鑑　⑥はたらく車	小賀野 実	ポプラ社
26	超はっけん大図鑑　⑬たのしいのりもの　バス ＳＬ 飛行機 船	小賀野 実	ポプラ社
27	はたらくじどうしゃ①きんきゅう自動車	海老原美宣男	国土社
28	はたらくじどうしゃ②パワフル自動車	海老原美宣男	国土社
29	はたらくじどうしゃ③いろいろな自動車	海老原美宣男	国土社
30	新幹線しゅっぱつ!	鎌田　歩	福音館書店
31	はたらくじどうしゃ⑤自動車なんでも百科	海老原美宣男	国土社
32	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バージニア・リー・バートン	福音館書店
33	でんしゃがまいります	秋山とも子	福音館書店
34	いっくんのでんしゃ	のぐちくみこ	福音館書店
35	とべ！ちいさいプロペラき	子風　さち	福音館書店
36	どうろせいそうしゃ	鎌田　歩	福音館書店
37	カーフェリーのたび	みねお　みつ	福音館書店
38	クレーンクレーン	竹下　文子	偕成社
39	はこぶ	鎌田　歩	教育画劇
40	あかくんでんしゃとはしる	のぐちくみこ	福音館書店

【授業の実際】

①本時まで

単元の導入の工夫

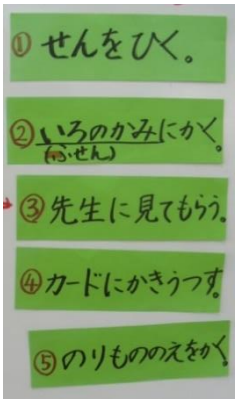
単元の導入で，昨年度までの１年生が作った「のりものずかん」（ドリ図書保管）を見せたところ，児童は，「早くぼくたちも作りたい。」とやる気をもって，単元の見通しをもつことができた。

児童は，指導者の「どんなのりものを知っているか。」という発問に対してさまざまな意見を出したが，のりものについてくわしい児童はおらず，興味関心が低いことがわかった。

その後，担任と学校司書でのりものに関する本の紹介をした。紹介した本は，５類の本だけでなく，絵本も取り入れた。紹介した本は，教室に置き，児童が自由に手に取ることができるようにした。自由に手に取り，本を読むことで，だんだんとのりものに興味をもち始め，自分のお気に入りののりものを見つけることができるようになってきた。自分のお気に入りを見つけたら，付箋（自分の名前）を貼るようにした。

学習のパターン化

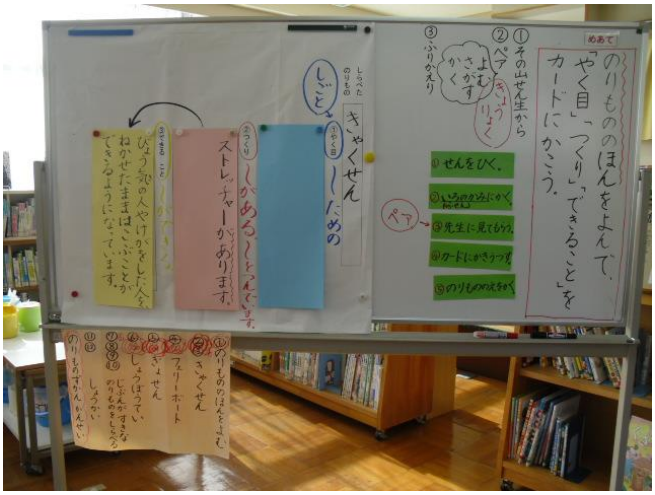
教材文「いろいろなふね」を学習していくなかで，「やく目」「つくり」「できること」の３つの観点の意味を押さえ，「のりものカード」にまとめていった。３色の色鉛筆を使って線を引いたり，３色の付箋を使ったりし，視覚的にもわかりやすくまとめたことで，読み取りが難しい児童も興味をもって読み進めることができた。４つの船の学習で，学習のパターンをつかむことができ，次時に行う「自分のお気に入りののりもの」についても興味をもつことができた。



②本時

例文を使って考える

本時は，図書資料から選んでいた自分のお気に入りののりものを「のりものカード」にまとめていく学習である。図書資料は，教材文のようなわかりやすい文ではないことから，読み取りに抵抗を示す児童がいると考えた。そこで，最初に司書教諭が例文（救急車：はたらくじどう車　しごととつくり　小峰書店）を提示し，学級全体で「やく目」「つくり」「できること」の３つの観点を読み取ることにした。図書資料を大きくコピーした例文提示にすべての児童が引きつけられた。資料は２ページにわたっている上に横書き，短文，矢印等の記号の使用があり，教材文との違いが大きかったが，司書教諭が隅々まで丁寧に読むことで児童は理解することができた。また，図書資料は必要以上の情報量であるため，情報の取捨選択をしなければならなかった。特に「つくり」についてはたくさん書かれているので，「自分が気に入ったところを１つ書こう。」と呼びかけた。担任と司書教諭の連携で，図書資料の読み取り，線を引く，付箋に書くというこれまでやってきた学習のパターンを振り返って学級全体で行い，それを提示し，児童が参考にしやすいようにした。



ペアでの活動

図書資料からの読み取りには抵抗を示す児童がいると考え，この１時間は相談し合えるペアでの活動とした。ペアには，同じ図書資料を与えた。図書資料は，事前にそれぞれが選んでいたお気に入りののりものの資料である。また，能力別のペアとしていたため，読み取りの能力に合わせた図書資料を選んだ。ペアでの活動にしたことで指導者に頼るのではなく，児童同士での対話が増え，時間いっぱい意欲的に活動することができたことが下記の授業記録より分かる。

授業記録１
Ｃ１：これが「やく目」じゃない？
Ｃ２：ぼくは、それは「できること」だと思うな。だって、「・・・ができる。」って書いてあるもん。
Ｃ１：どっちかなあ。
Ｃ２：「やく目」は、こっちだよ。
Ｃ１：ああそうか。
Ｃ１：「つんでいる。」と書いてあるから、これは「つくり」だね。
Ｃ２：「ストレッチャーにのせた・・・・」ってかいてあるけど。
Ｃ１：「ストレッチャーがある。」と書いてあるからこれは「つくり」で、ここに書いてあるのは「できること」だね。

授業記録１のペアは，自分たちで読み取りができると考えていたので，情報量の多い資料を与えた。授業記録のように対話しながら，観点に沿って自分たちで読み取っていった。しかし，「やく目」と「できること」をすっきりと見分けることが難しかったようである。この時間は，ペアでしっかりと相談しながら学習ができていたことをほめた。次時では，指導者と一緒にもう一度読み取り，納得し，「のりものカード」にまとめることができた。

授業記録２
ペアで一緒に声に出して読む。
Ｔ：見たことあるのりものだね。のりものの名前は何？
Ｃ３：ろせんバス　　カードに名前を書く
Ｃ４：「つくり」をさがそう。
Ｔ：バスには何がありますか？何をつんでいますか？
Ｃ３、４：つんで、つんで・・・・
Ｃ４：たぶんここに書いてある。
Ｔ：いいところ見つけたね。「ついている」って書いてあるね。
Ｃ４：どう書けばいい？
Ｔ：ストレッチャーの時は、「・・・があります。」と書いたよ。
Ｃ４：「つりかわや手すりがあります。」でいいんじゃない？
Ｃ３：そうだね。

授業記録２のペアは，読み取りが難しいと考えていたので，３つの観点が読み取りやすい図書資料を準備した。二人で声に出して図書資料を読んでいたが，内容を理解することは難しいように感じたので，担任と一緒に読むこととした。授業記録２から分かるように，担任がポイントになる言葉を伝えることでその言葉について書かれたところを見つけ出していた。この時間内に３つの観点を付箋に抜き書きするところまではできたので，児童は満足しているようだった。しかし，このペアが読み取った「路線バス」について，抜き書きはしているものの自分から「路線バス」のことを

伝えられるほど理解はしていないように思えた。次時では，内容について発問したり，対話をしたりし，理解を深めようと考えた。

次時の様子を見ていると，ペアで対話しながら「路線バス」の絵を描いていた。対話の中で，「つくり」や「できること」についての話題が出ていた。この二人の児童は，文章からの読み取りは難しかったが，写真をよく見て絵に描くことで，そののりものについて理解できるようになっていったことがわかった。

一人一人に応じた図書資料の準備

一人一人の実態を把握し，個やペアに合った資料を用意することで児童のやる気を引き出すことができた。また，図書資料をカラーコピーして渡し，直接，線を引くことができるようにした。児童は，教材文の時と同じ手順で学習することができ，戸惑うこともなく，学習に集中することができた。

図書資料の準備にあたり，担任と司書教諭，学校司書の三者は，ペア作り，支援の仕方，図書資料選定等の話し合いを重ねたので，共通理解して児童の支援にあたることができた。

語彙の習得

「やく目」「つくり」「できること」という言葉の意味を理解させるために，児童に分かりやすい言葉に置き換えて提示した。

やく目･･･何をする　・・・ための
つくり･･･何がある　・・・あります。・・・をつんでいます。
↓
できること･･･何ができる　・・・ができます。

教材文の読み取りの時から，「やく目」については，のりものの「やく目」だけでなく，「先生のやく目は？」など，身近なものやことに目を向けさせて考えるようにした。「つくり」という言葉は，児童の生活の中で使うことが少ないので，理解させることが難しかった。また，「つくり」→「できること」と下記の例のようにつなげて考えて見つけることが難しい資料もあった。難しい場合は，「つくり」を「ひみつのそうち」「ひみつのもの」などと分かりやすい言葉に置き換えて探させるとよかった。

例：　つくり　（ひみつのそうち）・・・つりかわや手すりがついています。
↓
できること　・・・立ったままのることができます。

③本時以降

自分のお気に入りの乗り物についてまとめたことを学級内で伝え合った。友達が調べたことを熱心に聞く様子が見られた。

「のりものカード」は一人２～４枚書いた。学級全体で４５ページもの「Ｈ３０年度　のりものずかん」としてまとめることができ，満足いく活動となった。

【成果と課題】

成果

①過去の１年生が作った「のりものずかん」を見せたことは，学習のゴールを見通しやすく，「自分たちもすてきなものを作りたい」というやる気を引き出すことへもつながった。

②本時（図書資料から探す１時間目）のペア活動は，対話しながら何度も図書資料を読んで友達同士で考えることができ，ねらい達成に向けてとても有効であった。

③三者が授業のねらいや流れ，一人一人の実態，資料の準備などを何度も話し合って共通理解し，準備したことで，児童がいきいきとして学習に向かうことができた。

④３つの観点（「やく目」「つくり」「できること」）をあげたことで，すっきりとまとめることができ，わかりやすい学習となった。

課題

①さまざまな図書資料があり，３つの観点（「やく目」「つくり」「できること」）を読み取ることが難しい資料もあった。「やく目」は，その乗り物の定義であるので，短文に要約した方がよいものもあった。１文で３０字から４０字くらいが目安だとすると，マス目のワークシートを使ってもよかった。「やく目」をさがす時には，「この車はどんな車なの？」と児童に聞いてみる。「～な車」と児童は答えるので，そのまま文として書かせることができる。指導者は，「それってどこに書いてあるの？」と聞き返すと，児童は図書資料の中から探すことができる。このように時間はかかるが，対話をしながら丁寧に読み取っていくことが大切である。

②「やく目」「つくり」「できること」は，すべて抽象語であり，指導者ができるだけたくさんの例をあげて話し，その後，児童の言葉で言わせる等，語彙習得に向けての支援の必要性を強く感じた。図書資料にも難しい語彙がたくさん出てきた。児童と対話をしながら語彙に着目させ，語彙を広げる場にしていくことが大切である。

③図書資料から抜き書き，「のりものずかん」完成を喜びとして児童は意欲的に取り組んだが，本当に自分が調べたのりものについて理解できているのか疑問に思った。成果物だけに目を向けず，自分のお気に入りののりものにこだわりをもって調べ，自分の言葉で伝えることができる児童をめざしていきたい。